

# 2025 年度地域協働フィールドワーク

## 活動報告書



2026 年 3 月発行

# 目次

- P.1 目次
- P.2 はじめに
- P.3 メンバー紹介
- P.4 4~6 月準備
- P.5 事前訪問
- P.7 事前訪問を終えて、本訪問に向けて
- P.8 本訪問スケジュール
- P.10 本訪問（居酒屋・社交場）
- P.13 個人プロジェクト～海岸清掃～
- P.15 個人プロジェクト～チェキ～
- P.16 個人プロジェクト～高齢者施設訪問～
- P.18 個人プロジェクト～天売島と伊達を繋ぐ～
- P.19 オープンキャンパスでの学生報告
- P.20 地方創生カレッジ成果発表会
- P.22 おわりに

※表紙の写真は本訪問 7 日目にシーカヤック体験をさせてもらった時に撮影した写真です。

# はじめに

この活動の母体は、北海学園大学経済学部 of 学生を対象とした特別講義「地域インターンシップ」です。本プログラムは、2016 年度に当時の学生が天売島を訪問した際に始まりました。島民の方々との交流を通じて、離島ならではの地域性や天売島が抱える課題を知り、自分たちに何が出来るかを模索する中で、天売島の暮らしや仕事にまつわる歴史を次世代に伝えるための書籍を作成すること、また当時使われなくなってしまった空き店舗の再活用を行うことが提案されました。

2024 年度は、これまでの活動を踏まえつつ、新たな要素を加えた取り組みを行い、地域住民や観光客との交流を一層深めました。「居酒屋てん」は 2023 年度に引き続き行われ、さらに宅配サービスを導入することで、店舗に来られない島民との交流も促進しました。また、コロナ禍で先輩方の活動を知る機会が少なかったことを受け、過去の活動を振り返り、その成果を記録として残すため、アルバムを作成しました。そして、今年は今回の活動を学生ならではの視点で記録した個人プロジェクト体験記ウェブ公開も行いました。

2025 年度は、4 人という少人数での活動となりました。少人数だからこそ出来ることを模索し、毎年行っている「居酒屋てん」の他「社交場テン」という島民の方々との交流を主としたイベントも行いました。また、個人プロジェクトとして、チェキとクーポンを配布しました。島民の方々と学生との交流の記録としてチェキを配布し、思い出を形に残すことが出来ました。さらに、来年度の飲食イベントで使用出来るクーポンを添えることで、継続的な関わりを促す仕掛けにもなり、交流の輪を広げる有意義な取り組みとなりました。加えて、個人プロジェクト海岸清掃では、島の自然環境への理解を深める契機となりました。さらに、高齢者施設訪問では、島の高齢者の方々との対話を通じて、地域の記憶や暮らしの知恵に触れることが出来ました。また、個人プロジェクト伊達と天売を繋ぐでは、学生の出身地である伊達市と天売の文化的な交流を模索しました。

そして、今年度の大きな成果として、北海学園大学の秋のオープンキャンパスおよび地方創生カレッジ成果発表会という、二つの大きな発信の場を得たことです。天売島の魅力を広く伝える機会をいただき、地域の未来を深く考える上で、非常に意義深い経験となりました。

最後に、本プロジェクトにご支援いただいた天売島おらが島活性化会議の皆様、特にコーディネーター役を務めていただいている坂本学様、天売島の島民の皆様、北海道エンブリッジ様、そして北海学園大学経済学部の皆様に、心より感謝申し上げます。

2025 年度 北海学園大学協働フィールドワーク  
経済学部地域経済学科 2 年 三谷 真央

# メンバー紹介



2年 川崎拓哉

2年 三谷真央

2年 布谷悠

3年 稲上梨奈

# 4~6 月の準備

2 年 三谷 真央

事前訪問のスケジュールは以下の通りである。

|         |                                                                                   |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 4/24    | メンバー初顔合わせ                                                                         |
| 5/1     | 初回打ち合わせ<br>CW*・NP**の今までの活動内容について説明を受けた。                                           |
| 5/15    | 6 月訪問スケジュールの確認、昨年の振り返り、天売島なんでもレポートの発表                                             |
| 5/22    | 天売島なんでもレポートの発表、6 月の宵宮祭に何を出店するのか、8 月の全体プロジェクト《居酒屋てん》の具体的な実施内容、なんでも隊の課題について話し合った。   |
| 5/29    | スタートオリエンテーション<br>講師：北海道エンブリッジ 浜中さん<br>「天売島プロジェクトで誰のために、何の役に立ちたいか」それぞれ目標設定をし、発表した。 |
| 6/5     | 宵宮祭（6/17）の出店企画と 8 月訪問時の全体プロジェクト案をまとめた。                                            |
| 6/12    | 宵宮祭景品の買い出し                                                                        |
| 6/17~19 | 6 月訪問                                                                             |

\*CW：地域協働フィールドワークの略称。

\*\*NP：北海学園大学地域連携事業「天売島にぎわいプロジェクト」の略称。CW とは別に、NP では経済学部に限らず全学部生対象に参加学生を募集し、7 月の海の日連休を利用して、学生が主体となって天売島ににぎわいをもたらすイベントを企画・実践するプロジェクト。

# 事前訪問

3年 稲上 梨奈

日程：6月17日（火）～6月19日（木）

## 6月17日（火）

|             |                |
|-------------|----------------|
| 8:30        | 大学出発（貸切バス）     |
| 12:00～12:30 | コープはぼろで昼食・買い出し |
| 12:30～13:30 | 北海道海鳥センター見学    |
| 14:00       | 羽幌フェリーターミナル発   |
| 15:35       | 天売島フェリーターミナル着  |
| 16:00       | 宵宮祭に参加（出店+手伝い） |
| 19:00 頃     | ウトウの帰巢ナイトツアー   |
| 20:00 頃     | 交流会に参加         |

## 6月18日（水）

|    |                    |
|----|--------------------|
| 終日 | 厳島神社祭              |
| 夜  | 「B・PORT」にて打ち上げ・懇親会 |

## 6月19日（木）

|        |               |
|--------|---------------|
| 8:30   | 「てん」集合・打ち合わせ  |
| ～11:00 | 挨拶周り          |
| 11:30  | 「番屋」で昼食       |
| 12:30  | レンタル自転車で島内一周  |
| 15:50  | 天売島フェリーターミナル発 |
| 17:25  | 羽幌フェリーターミナル着  |
| 21:00  | 大学着（貸切バス）     |

8月の本訪問に向けて、CWとNPの合同で事前訪問を行った。毎年6月18日に行われる厳島神社祭とその前日の宵宮祭に参加し、天売島の方々との交流を通して8月の本訪問でどのような個人プロジェクトを行いたいかを考えることが目的である。今年は宵宮祭に出店させていただき、「叩いてかぶってじゃんけんポン」を行った。景品はお菓子である。宵宮祭に参加したことのあるメンバーがいなかったため、最初は雰囲気をつかむことが難しく、積極的に動くことが出来なかった。しかし後半には、子供たちと一緒に出店で遊んでいる学生の様子もみられたので良かったと思う。夜にはウトウの帰巢ツアーに参加した。ガイドさんの説明を受けながらバスで向かい、到着後にはたくさんのウトウが帰巢する姿を観察することができた。ウトウは飛ぶのが上手くないために観光客に直撃している様子や、地面にぶつかる姿が印象的であった。その後、翌日の厳島神社祭に向けた交流会（食事会）に参加させていただいた。いろいろな席に学生を呼んでいただき、話しかけてくださったため、初めてのメンバーもたくさん交流することが出来た。

厳島神社祭当日は早朝からお祭りの準備を手伝った。祭壇の準備や、旗の設置などだ。お祭りが始まると男性メンバーは神輿を担ぎ、各所で休憩をはさみながら島内を回った。女性メンバーその前を、旗を持ちながら歩き、休憩所では飲み物を配るなどのお手伝いをした。お祭りの後は、「B・PORT」での打ち上げに参加した。島民の方との交流の中で、自分のやりたいプロジェクトに関するアドバイスや、島民の方がどのようなことを求めているのかの情報収集をすることが出来たと感じている。また、去年は交流することの出来ていなかった方とお話することができ、「8月の訪問も楽しみにしている」とのお声をいただいた。

最終日には、挨拶周りをした後、「番屋」で昼食を食べた。その後、初めて天売島に来たメンバーは自転車をレンタルし、島内を一周した。2年目のメンバーは、お世話になった人へ挨拶に行ったり、川口商店さんからの依頼で清掃を手伝ったりなどをして過ごし、帰路についた。左（ウトウ）右（厳島神社祭）



## 事前訪問を終えて、本訪問に向けて

3年 稲上 梨奈

事前訪問で島民の方々に質問したことやその回答を共有し、本訪問の際にどのようなプロジェクトを行いたいかの話し合いを行った。全体プロジェクトは、昨年と同様に飲食イベントの開催となんでも隊の活動を行うことに決定した。飲食イベントは、島民の方との交流の場を設けるために、交流スペース「てん」を活用し夜間に行った。今年は参加メンバーが少なく、フードをメインとした飲食イベントのみでは島民の方との交流の時間が十分に取れないと考えたため、1日目と2日目で提供するものを変更することに決めた。1日目は、例年通り「居酒屋てん」を行い、2日目はドリンクのみを提供する「社交場テン」を行うことに決めた。これにより、2日目にはフードを提供する手間を省くことができ、学生と島民の方との交流の時間を確保することが出来るのではないかと考えた。また、具体的にどのようなメニューをどのくらいの価格で提供するかを決定した。その後、仕入れる食材とその量を決め、本訪問の約1週間前に食材と食器や伝票などの備品の買い出しを行った。

飲食イベントとなんでも隊の活動を告知するために、チラシの作成と、島内の各世帯に設置されているIP通知端末(通称IP電話)に流す宣伝メッセージの作成を行った。特に、なんでも隊は、「学生に対して依頼をしづらい」といった課題があったため、今年は出来るだけ島民の方との交流の中で依頼をいただくようにした。

個人プロジェクトは各自で案を出した後、坂本さんと浜中さんが打ち合わせに参加した7/31、8/7にアドバイスをいただき、決定した。また、同日に飲食イベントに関する相談もさせていただいた。

# 本訪問のスケジュール

2 年 川崎 拓哉

8 月 15 日（金）

|    |                   |
|----|-------------------|
| 出発 | 挨拶回り<br>島の方々と BBQ |
|----|-------------------|

8 月 16 日（土）

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 居酒屋てん | チラシ配り・調理<br>営業＋宅配サービス |
|-------|-----------------------|

8 月 17 日（日）

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 社交場テン | 午前→なんでも隊の活動<br>午後→営業開始 |
|-------|------------------------|

8 月 18 日（月）

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 高齢者支援センター<br>の見学・参加 | 高齢者との交流 |
|---------------------|---------|

8 月 19 日（火）

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| なんでも隊 | 小中学校のお手伝い<br>診療所とちびっこランドの清掃<br>海岸清掃 |
|-------|-------------------------------------|

8 月 20 日（水）

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 挨拶回り<br>日本酒イベント | イベント準備と運営 |
|-----------------|-----------|

8 月 21 日（木）

|    |                     |
|----|---------------------|
| 帰着 | シーカヤック体験<br>「てん」の清掃 |
|----|---------------------|

本訪問では、悪天候の中ではあったが予定通り天売島に到着することができた。今年度は以前から行なっている飲食イベントに参加学生が少ないことを理由に目的別に二日間に分

けて開催した。居酒屋てん、社交場テンで目的を分けて開催することで学生が少ない中でも島民の方に楽しんでもらうことと学生と島民の方との交流を両立することができた。また恒例となりつつある何でも隊に関しては参加学生の数が少なく対応できることが限られている中でも多くのことをお手伝いさせていただけた。

また個人の興味関心に合わせた個人プロジェクトも行なった。

- 高齢の方と関わることで天売島を深く知る「高齢者施設訪問」
- 島民の方々の悩みを解決する「何でも隊」
- 島民方々と思い出を末長いものにする「チェキプレゼント」
- 島の美しさをより良いものにする「海岸清掃」
- 他地域との親交を図る「天売と伊達を繋ぐ」

この5つが主に主に行なったものである。

# 本訪問一居酒屋てん

2年 布谷 悠

現在、天売島には夜間に営業している飲食店がほとんどないことから、私たちが居酒屋を営業し、島民や観光客の方々と交流する場をつくりたいという思いで、2023 年度からこの取り組みが始まった。今年は学生の人数が少なく交流しながらの営業を行うことは難しいことが予想されたので飲食の提供がメインの「居酒屋てん」と交流がメインの「社交場テン」として2日に分けての実施とした。

今回は人数が限られ短い営業時間のため、どうすればより多くの方に楽しんでもらえるか、どのようにすれば採算がとれるのかを考え試行錯誤した。昨年や NP の 7 月の飲食イベントとはメニューを変え、高付加価値の商品を中心に提供した。いつも提供していた焼き鳥ではなく、「せせり串」に変え、「牛串」を追加し、要望の多かったデザートメニューを充実させた。また少ない人数でも提供しやすいようおつまみ系のメニューは事前に調理を行い準備しておくことでスムーズな提供を実現した。チューハイ等は缶そのままの提供とした。牛串などフードメニューは試食会を行い決定した。

仕入れなどは昨年のを参考にしつつ、今までにないメニューも多かったのでどこの商品にするかなど検討を重ねた。串ものはお盆期間と重なっていたため発注が上手くいかずバタついてしまったが何とか仕入れを行うことができた。備品等事前に購入できるものは分担して持ち運び、長く持たない野菜や調味料は羽幌町のコープで購入し、串ものやデザートなど冷凍品を活用し、配送を依頼した。

実際に配布したチラシ

実際のメニュー表



| 居酒屋てんメニュー  |          |             | 2025. 8. 16 |
|------------|----------|-------------|-------------|
| ★ 枝豆       | ★ ナムル    | ★ レンコンのざんぱら | ★ さやうりの浅漬け  |
| 100円       | 100円     | 150円        | 100円        |
| ★ 肉巻おにぎり   | ★ チョココロキ | ★ 牧家のミルクレア  | ★ ソフトドリンク   |
| 300円       | 250円     | 350円        | 100円        |
| ★ 焼き鳥(せせり) | ★ イチゴケーキ | ★ 牧家の白プリン   | ★ 緑茶        |
| 200円       | 250円     | 300円        | 100円        |
| ★ 牛串       | ★ ビール    | ★ コーラ       | ★ オレンジジュース  |
| 200円       | 500円     |             |             |

【デザート】  
【ドリンク】

★ 伊達市の「伊達市」の おすすめデザート

★ ゆうの出身地

★ 明日17日は 社交場てんも開催!

また、今回はメニューの決定が遅くなってしまったため、チラシの作成などが遅れ告知の機会が少なくなってしまった。現地に到着したあとに予定したチラシ配りも高速船の欠航により当日の朝となってしまったためあまり周知することができなかった。

居酒屋てんは8月16日の16:00~20:00の時間帯で営業し、宅配は当日10:00~13:00の受付、14:00~15:00の一時間の配達とした。宅配も告知の機会が少なくなってしまったため、利用が少なくなってしまった。「てん」まで来られない方にも楽しんでもらうという目的は達成できなかったと感じている。宅配の実施については来年の課題といえる。

今回は布谷の個人プロジェクトも連動して行われた。伊達市のものを提供するというこ

とで、牧家のミルクレープと白いプリンを提供と伊達市の紹介チラシの配布をした。

告知は遅れてしまったが、昨年や7月に引き続き楽しみにしてくれている方も多く、80人くらいの方に来ていただくことができた。また観光客の方との交流の機会にもなった。

収支については、若干の赤字となったが、島民との交流する場を作ることが出来たのは非常に大きな経験であった。

準備や運営に関してそれぞれの得意なことを生かした分担ができるとより良い活動になったと思う。

今後は、今回の経験を踏まえ、さらなる改善と地域との連携強化に努めていくことが出来ればと考えている。

営業中の様子



前日の準備の様子



# 本訪問—社交場テン

2年 布谷 悠

今年は「居酒屋てん」と「社交場テン」を分け、社交場テンでは交流をメインにするために提供に時間のかからない飲み物のみとした。こちらからのおつまみ類の提供は予定しておらず、持ち込み自由とした。

社交場テンも企画に時間を要した。お酒類の提供の方法をどうするか、おつまみの提供をするのか、居酒屋てんとの差別化をはかるにはどうすればいいのかなど検討を重ねた。

レモンサワーとハイボールは注文に応じて作るかたちをとった。ノンアルコールは居酒屋てん同様缶での提供とした。ワインは小樽のワイナリーから購入、ワイングラスを用意し提供した。ワインの紹介チラシも配布した。当日は居酒屋てんで残った食材の提供を行った。また、会計の時間を短縮するために全品 300 円とした。

社交場テンは 8 月 17 日の 17:00~21:00 の時間帯で営業した。

お酒がメインだったこともあり、来る方は少し限られてしまったが 50 人ほどの方にお越しいただくことができた。ゆっくり会話をする時間となり交流の場をつくるという目的は達成できた（右の写真は居酒屋テン終了後に参加者と撮った集合写真）。



実際のチラシ

北海学園大学地域協働フィールドワーク2025



## 社交場テン

8月17日(日)17:00~21:00

・場所: てん(天売観光売店)

※飲み物のみの提供です。

・フード持ち込み自由です!

天売島の魅力や私たちの活動に対して思うこと、来年して欲しい活動など沢山お話出来たらなと思っております。  
拓哉激推しの小樽のワインもあります。  
是非お越しください!

実際のメニュー表

社交場テン

2025.8.17

## MENU

全品300円

- ☆ビール
- ☆レモンサワー
- ☆ハイボール
- ☆ノンアルコール
- ☆ワイン
  - ★白ワイン tabi(タビ)
  - ★白スパークリング ocean(オーシャン)
  - ★ロゼのスパークリング おろろゼ
- ☆緑茶
- ☆オレシジジュース
- ☆コーラ

♡フード持ち込み自由♡

# 個人プロジェクト「海岸清掃」

2年 川崎 拓哉

初めに今回「海岸清掃」を行なった目的について説明する。目的としては、6月や7月に私が景色を見に行っていた海岸、その綺麗な景色が漂流物などによって魅力が半減しているように感じ、折角の魅力を損なわず見ることができればと考えたためである。具体的な活動内容としては持ち運べるサイズの漂流物のみを回収し、運べないほど大きな漂流物は一箇所に集めるなどした。

坂本さんとの打ち合わせで回収できるゴミのサイズや分別回収の都合などを確認していただき8月19日の午前中に実施することとなった。

当初は島民の方と学生が交流を図りながら清掃活動を行う予定であったが当日の悪天候などにより学生中心の清掃活動となった。

1時間前後の清掃活動であり、大きな漂流物を回収できなかったことなど完璧な清掃であったとは言えないが行なったことに意味あったと考える。

漂流物は漂着し続けるものであることなどからも完璧な清掃を行うといったことより継続的に清掃活動が続けることが重要であると考えた。

海岸からの朝焼け

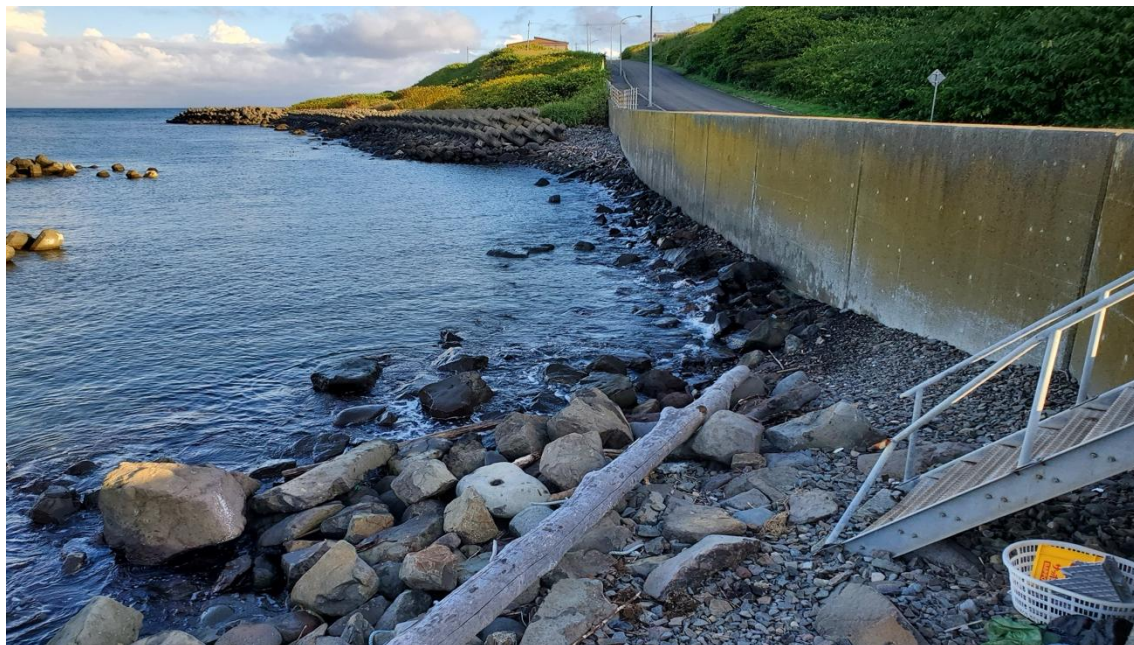


今回は天候の影響により学生中心での清掃活動となったが以前は島外の方も大規模に参加した清掃活動があったため、今後も海岸清掃を行うことができるならばこの海岸清掃も島民との交流の機会や島外の方に島への関心を高める活動にすることも出来ればさらに意義ある活動があるとも考えた。

清掃前の海岸



清掃後の海岸



## 個人プロジェクトーチェキとクーポンの配布

3年 稲上 梨奈

私は、3つの目的からチェキの配布を行った。1つ目は、いつもお世話になっている天売島の方々に形に残るお返しをしたいということだ。私たちは毎年、天売島で活動をさせていただき、たくさんの写真を撮らせていただいている。しかしこの写真は北海学園の中のみで共有で、天売島の方々には共有出来ていないと感じていた。そこで、写真を島民の方と共有し、さらに形に残せないかと考え「チェキ」をお渡ししようと考えた。2つ目は、今年のイベントや学生のことを思い出すきっかけにしたいということだ。ただ写真を渡すだけでなく、島民の方と一緒に活動している写真や裏面に学生からのメッセージを加えることで、久しぶりにチェキを見つけた時に「どんな活動を、どんな学生としたのか」を思い出すことが出来ると考えたからだ。3つ目は、来年度以降の活動にもつなげていきたいということだ。来年の私たちの飲食イベントで利用できるクーポンと一緒に配布することで、来年もイベントにきて交流をしたり、島外に出る方や観光客の方も思い出して来島してくださるのではないかと考えた。

プロジェクト実施のためにチェキの本体・フィルムを30枚と、メッセージを書くためのポスカを用意した。最終的には20人ほどに渡すことができ、中には2枚目が欲しいというお声もいただけた。プロジェクトを通じて、学生と島民の方との交流のきっかけを作ることが出来たと感じている。また、クーポンの配布により、「来年の飲食イベントも行くね」といったお声をいただけた。そのため、来年以降の活動に繋がる活動ができたのではないと思う。しかし、多くの人が集まる場では大量に印刷するには時間がかかりすぎてしまうため、限られた人にしか渡すことが出来なかった。また、チェキをとる際に一緒に学生側の記録のためにスマートフォンで写真を撮るべきであったと感じた。

来年の訪問でも、今年配布したクーポンの話題や、チェキの話題からたくさんの島民の方との交流のきっかけになればいいと考えている。しかし、このチェキの配布は私たちの活動に興味をもって交流しに来てくださった方にしかお渡しすることが出来なかった。なので、来年以降は私たちから積極的にアプローチしていきたい。

(右写真は実際に撮影したチェキとクーポン)



# 個人プロジェクト～高齢者施設訪問～

2年 三谷 真央

8月18日（木）、3年稲上・2年三谷・布谷・川崎の4人で高齢者施設を訪問した。

今回の高齢者施設訪問の目的は、高齢者の方々との交流を通じて、天売島についてより深く学ぶことにある。訪問を企画した理由は二つある。

一つ目は、6月および7月に天売島で実施したイベント（NPのサポート）において、高齢者の参加が少なかったことだ。身体的な事情で参加できない方がいるのではないかと考え、私たちの方から会いに行く必要があると感じた。

二つ目は、高齢者の方々からお話を伺うことで、天売島の歴史や暮らしの変遷について学べると考えたからである。長年、島に住み続けてきた方々だからこそ語れる、変わったこと・変わらないことがあるのではないかと思い、この企画を立ち上げた。

活動内容は、高齢者の方々の送迎に同行、天売島についての聞き取り、施設で日課となっている体操やゲームに参加させていただいた。

お話を伺うだけでなく、ゲームを通じて自然な交流が生まれ、笑顔や会話の中に島の空気を感ずることが出来た。

職員の方からは、天売島の環境の変化と高齢者施設の担い手不足について貴重なお話を伺った。



写真1: 自由時間、高齢者の方々と交流中。  
色々なお話を伺うことが出来ました。

激に気温が上がり、湿気も強くなった」との



写真2: 施設内のホワイトボードに貼付してあった1日のルーティーン

まず、環境の変化については「ここ数年で急こ

とだった。島の自然環境も確実に変化していることがうかがえる。

次に、施設の担い手不足については、深刻な課題が浮かび上がった。現在施設に通っている方の中には、10年前に職員として一緒に働いていた方もいるというエピソードがあり、高齢化の進行が顕著である。

職員の方は、お母さまと二人三脚で施設を運営しているが、お母さまは70歳を超えており、負担が大きいと語っていた。外部からの支援がなければ運営が困難であり、将来的に一人になった場合の不安も強く感じている様子だった。

今回の訪問を通じて、天売島の「今」を生きる人々の声に触れることができた。高齢者の方々との交流は、単なる情報収集ではなく、島の記憶を受け継ぐ営みであり、地域との関係性を深める貴重な機会だった。

また、職員の方の語りからは、地域福祉の現場がいかに人と人との信頼で成り立っているかを実感した。担い手不足という課題は、制度だけでは解決できない「関係性の継承」の問題でもあると感じた。

今後は、こうした現場の声を丁寧に記録し、地域の持続可能性を考えるうえでの基盤として活かしていきたい。私自身も、地域に寄り添いながら、できることを一つずつ積み重ねていきたいと思う。

# 個人プロジェクト—天売と伊達をつなぐ

2年 布谷 悠

私がこの「天売と伊達をつなぐ」という企画を行おうと思ったのは地元である伊達市と好きだと思った天売、双方が互いの魅力を知り、交流のきっかけを作りたいと思ったからだ。また、関りが少ない地域同士なので食べる機会が少ないものの提供ができると考えた。

内容としては、天売では8月訪問時に「居酒屋てん」での牧家のミルクレープとプリンの販売、伊達市を紹介するチラシの配布を行い、伊達市では洋麺茶屋牧家伊達店にて川口商店のおつまみの販売、天売島を紹介するチラシの配布を行った。企画の段階では伊達市で天売島の食べ物の試食ができるイベントを考えていたが実現には至らなかった。

実際に販売してみて微力ではあるが伊達のことも天売のことも知ってもらう機会にはなったと思う。どちらとも少しではあるが興味を持ってくれた方もいたので、ある程度は目的を達成できたといえる。しかし、交流のきっかけづくりまでは到達できていないと感じている。そのため、来年度は伊達市での試食の機会の提供とともに交流の機会づくりをしていきたいと考えている。

ご協力いただいた川口商店さん、洋麺茶屋牧家伊達店さん快く引き受けていただきありがとうございました。

## ↓それぞれの紹介チラシ

北海道大学  
地域協働フィールドワーク  
布谷悠の出身地!

### 伊達市

<伊達市の魅力>

- ・温暖な気候：北海道でも雪が少なく暮らしやすい
- ・歴史文化：仙台藩伊達家ゆかりの開拓史
- ・自然景観：有珠山・阿利山・有火湾の絶景
- ・温泉と食：伊達温泉や海産物（ホタテ・マツカワ）

<季節の楽しみ>

春：春一番伊達ハーフマラソン  
夏：伊達武者まつり  
秋：だて農祭・漁業・大物産まつり  
冬：伊達雪まつり冬の陣

### 伊達野菜

伊達市といえば野菜！といわれるくらい有名で美味しい野菜。  
温暖な気候と豊かな土壌に恵まれ、トマトやアスパラ、キャベツなど多品種多品目の野菜を生産。  
甘みと鮮度が高く、季節ごとの味わいを楽しめます。

**Bocca**

伊達市を拠点とし、牧場から食卓まで一貫して手がける乳製品メーカーです。  
8月16日の飲食イベント「居酒屋てん」で提供されるミルクレープ、白いプリンをぜひお楽しみください！

伊達市 牧家 市営伊達牧場  
インスタグラム キーページ

北海道大学 経済学部2年  
地域協働フィールドワーク  
伊達市出身の 布谷悠 が紹介する!

### てうりとう 天売島

<季節の楽しみ>

春：春一番伊達ハーフマラソン  
夏：伊達武者まつり  
秋：だて農祭・漁業・大物産まつり  
冬：伊達雪まつり冬の陣

### 川口商店

地域協働フィールドワーク  
飲食イベントの際にも多くの協力をお願いしております。  
例年にこま、おきたら、天売昆布も川口商店さんのものです。

### 伊達と天売をつなぐたい!

地域協働フィールドワークの個人プロジェクトとして天売島2月訪問時の飲食イベントの際Boccaのミルクレープと白いプリンを提供させていただきます。  
また伊達を紹介するチラシも配布いたしました。  
牧家店内で天売島のおつまみを販売させていただきます。  
ぜひお買い求めください!  
来年度も伊達市と天売島をつなぐ企画を先定しておりますのでお楽しみに!

北海道大学  
経済学部2年  
地域協働フィールドワーク  
布谷悠の出身地!

# オープンキャンパスでの学生報告

2年 三谷 真央



私たちは、9月28日（日）に開催されたオープンキャンパスにおいて、地域協働フィールドワークの活動報告を行いました。

報告では、6月の事前訪問から8月の本訪問の概要に加え、各メンバーが発案から実行まで時間をかけて取り組んだ「個人プロジェクト」に焦点を当てました。全員が自身の取り組みを自信をもって発表できたことは、一連のフィールドワークの集大成を示すものであったと確信しています。

また、発表終了後、高校生から具体的な活動内容について熱心な質問をいただいたことが非常に印象に残っています。かつて、この活動を知らなかった私たちが、フィールドワークを経て、今度はその意義や魅力を高校生という「次の世代」につなぐ立場になれたことに、深い感慨を覚えました。非常に有意義な経験となりました。

# 地方創生カレッジ成果発表会

3 年 稲上梨奈

私たちは今年初めて、地方創生カレッジの活動報告会に参加させていただいた。今回は北海学園大学から 3 チーム（帯広、積丹、天売）と、小樽商科大学から 1 チーム（黒松内町）の計 4 チームであった。

私は、今回の地方創生カレッジにおける活動にあたり、大きく三つの目的を持って取り組んだ。一つ目は、活動を単なる記録に留めず、自分たちの活動の意義を深く再定義することだ。報告会に向けた資料作りを行うことで、これまでの活動が地域にとってどのような価値を持っていたのかを改めて問い直す機会となった。また、自分たちの行動を客観的に見つめることで、活動の表面的な部分だけでなく、その奥にある本質的な意味を深く考えるきっかけを得ることができたと感じている。二つ目は、今年初めてこの貴重な機会をくださった浜中さんをはじめ、日頃から活動を支えてくださっている島民の方々と、活動を通じた対話を行うことである。私たちが島でどのような思いを持って活動し、何を感じたのかを直接お伝えすることで、協力してくださった方々との繋がりをより強固なものにし、信頼関係を深めたいと考えた。三つ目は、大学の枠を越えた他チームとの知見の共有だ。異なる背景を持つ四つのチームがそれぞれの活動を報告し合うことで、自分たちの視点にはなかった新たな気づきを得て、来年度以降の活動をより多角的なものにアップデートしたいと考えた。

実際の報告会では、各チームの具体的な活動内容を共有するとともに、会場に足を運んでくださった方々と直接お話しすることができた。自分たちの活動報告をきっかけに、協力してくださった方々とこれまでの歩みを振り返れたことは、大きな成果であった。また、他のチームの発表を聞く中で、地域へのアプローチ方法や課題解決の工夫など、自分たちの活動にすぐにでも取り入れられるヒントを多く発見することができた。これらの他チームの事例を吸収できたことは、自分たちの活動を客観視し、新しい活動を行うための重要なきっかけになったと感じている。

来年度に向けては、今回の報告会で得られた他チームとの繋がりや、島民の方々からいただいたフィードバックを最大限に活かしていきたいと考えている。特に、来年度は単独のチームでの活動に留まるのではなく、他チームとの合同プロジェクトを企画するなど、より広い視野を持って活動を広げていきたい。今回の報告会を通じて、自分たちの活動の現在地を明確にできたことで、来年度も継続して島に貢献し、より深い交流のきっかけを作っていくためのきっかけになったと感じた。

写真左上：発表会チラシ、写真右上と下は発表会での学生

ともにつくる、  
地域のこれから。

地方創生カレッジ

学生が主役の地方創生プロジェクト 参加費 無料 一般 公開  
道内4地域で実施された地方創生促進プログラム 成果報告会

**1/16 (Fri) 入退場自由**  
**14:00 ~ 17:00**

小樽商科大学 札幌サテライト (sapporo55ビル 3階)  
〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西5丁目7

**オンライン配信も同時実施！**

このプロジェクトは地方創生カレッジ事業の一環として地域の将来を担う学生世代がフィールドワークを通じて地方創生をジブントとして捉えて活動していくことを支援する取り組みです。

今年は、小樽商科大学と北海学園大学が連携し、羽幌町（天来島）、厚田町、磯谷町、新ひがし町4つの地域で取り組まれた地方創生を促進するプログラムの成果報告会を行います。

北海道の様々な地域で行われる地域課題の発見と解決に向けた動きをプレゼンテーションします。是非ご参加下さい！

**14:00 第1部 / オープニングセッション**  
**14:30 第2部 / プロジェクト発表**  
①羽幌町（天来島）  
②厚田町  
③磯谷町  
④新ひがし町

**15:30 第3部 / 地域クロストークセッション**  
**16:00 第4部 / 交流会**  
※内容やタイムスケジュールは変更になる可能性があります

**申し込み方法**  
下記WEBサイトより詳細を掲載の上、お申し込みください。

**オンライン** 申込が切 / 2025年1月14日 23:59  
**会場参加** 申込が切 / 2025年1月16日 13:00

**お問い合わせ**  
NPO 法人北海道エンブリッジ  
TEL / 011-676-5338  
受付時間：9:30～17:30（平日のみ）  
MAIL / info@en-bridge.org

主催 / 公益財団法人日本学生支援本部 共催 / 小樽商科大学 北海学園大学 事務局 / NPO 法人北海道エンブリッジ



## おわりに

3年 稲上梨奈

今年度の活動は、3年生1名、2年生3名の計4名という非常に少人数の体制で臨みました。昨年度に比べると一人ひとりの負担が大きく、活動を維持できるかという不安もありましたが、その分メンバー同士の結束は強く、常にコミュニケーションを取りながら一つひとつの課題に向き合ってきました。この少人数だからこそ求められたチームワークの深まりは、会議から現地での活動期間までを支える大きな力となりました。

全体プロジェクトとして実施した「居酒屋てん」では、人手不足という壁に直面しました。しかし、そこで活動を縮小させるのではなく、あえてフードを出さない社交場として営業する日を設けるなど、限られた人数で最大限の交流を生むための工夫を凝らしました。また、私たちの手が足りない場面では、島民の方々が自らサポートに入ってくださる場面も多く、これまで以上に地域の方々の温かさと、共創することの大切さを肌で感じる活動となりました。

個人プロジェクトや新たな挑戦としては、高齢者施設への訪問を初めて実施しました。これまでの居酒屋運営だけでは関わりが薄かった層の方々と触れ合うことで、島が抱える課題や求められている交流の形を多角的に捉え直すことができました。また、浜中さんから機会をいただいた合同活動報告会への参加は、私たちにとって大きな転換点となりました。自分たちの活動を客観的に振り返り、他大学の視点を取り入れることで、今年の思い出に留まらない、来年度以降もこの活動を通じて地域にどのような影響を与え続けたいかという、長期的な展望を持つことが出来ました。

最後に、このような困難を乗り越え、充実した活動を行うことができたのは、多くの皆様の支えがあったからこそです。私たちの力不足を補い、共に汗を流してくださった島民の皆様、活動の幅を広げるきっかけをくださった浜中様、そして常に指導を惜しまない教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。今年度、少人数での挑戦を通じて得た、地域と手を取り合う力や、活動への深い洞察を後輩たちへ引き継ぎ、さらに進化した活動ができるよう尽力してまいります。今後ともご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、チーム一丸となって活動してまいりますので、引き続きお力添えをいただけますようお願い申し上げます。